

相模鉄道 要望項目一覧（10件）

I	輸送力増強	2
1	新線・線増計画	
(1)	いずみ野線のツインシティ方面への延伸（継続）	
(2)	いずみ野線の平塚への延伸（継続）	
2	輸送計画の改善 ＜他路線への乗入れ＞	
(1)	JR相模線への乗入れ（継続）	
(2)	小田急線への乗入れ（継続）	
II	利便性向上	3
1	停車要望	
(1)	GREEN×EXPO2027を契機とした、瀬谷駅・三ツ境駅への特急停車（新規）	
2	新駅の設置	
(1)	海老名駅～かしわ台駅間への新駅の設置（継続）	
3	駅施設等の整備	
(1)	高齢者、障害者、乳幼児連れの保護者等に配慮した駅施設の整備等（継続）	
(2)	西谷駅のバリアフリー化（継続）	
III	その他	6
(1)	自転車等駐車場用地の提供等放置自転車対策の推進（継続）	
(2)	相鉄新横浜線の利用しやすい運賃設定等の検討（継続）	

I 輸送力増強

1 新線・線増計画

(1) いずみ野線のツインシティ方面への延伸（継続）

神奈川県の県央・湘南都市圏では、平塚市大神地区と寒川町倉見地区とを一体化し、東海道新幹線新駅の受け皿となるツインシティの整備により、全国との交流連携の窓口を形成することをめざしています。相鉄いずみ野線の延伸は、ツインシティ倉見地区と横浜・川崎方面を結ぶ、県央・湘南地域にとって、大変重要な路線と考えています。

こうした中、平成28年4月には、交通政策審議会答申「東京圏における今後の都市鉄道のあり方」において、県央部と横浜市中央部や都心部との交通利便性向上が期待できるものとして、「湘南台から倉見まで」が位置付けられました。

この答申では、事業性に課題があるため、関係者において、需要の創出につながる新たなまちづくりや広域交通の拠点整備の取組み等を進めたうえで、関係者において、事業計画について十分な検討を行うことが求められています。

このため、県や地元自治体、鉄道事業者、沿線に立地する慶應義塾大学で構成する「いずみ野線延伸検討協議会」を立ち上げ、課題の解決に向け、採算性の確保や新たなまちづくり等、様々な検討を進めています。そのひとつとして、藤沢市では、沿線の「健康と文化の森地区」について、令和6年3月までに、地区全域を市街化区域に編入するとともに、土地区画整理組合を設立し、まちづくりを進めているところです。

つきましては、こうした地域の取組みにご理解をいただき、いずみ野線のツインシティ方面への延伸が早期に実現されるよう要望いたします。

〔新かながわグランドデザイン、平塚市総合計画、平塚市都市マスタープラン、平塚市総合交通計画、藤沢市都市マスタープラン、寒川町総合計画2040、寒川町都市マスタープラン〕

(2) いずみ野線の平塚への延伸（継続）

いずみ野線延伸については、ツインシティ方面までの延伸実現をめざしつつ、令和6年2月に、平塚への工事施行認可申請期限の10年延長が認可されていることから、湘南台駅から慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス周辺までの区間を端緒とし、平塚への延伸についても早期事業化に取り組まれるよう要望いたします。

〔平塚市総合計画、平塚市都市マスタープラン、平塚市総合交通計画、茅ヶ崎市総合計画、ちがさき都市マスタープラン〕

2 輸送計画の改善

<他路線への乗入れ>

(1) JR相模線への乗入れ（継続）

新型コロナウイルス感染拡大以前は、JR相模線の利用者は年々増加しており、相鉄・JR直通線の令和元年11月の開業に加え、令和5年3月には、相鉄・東急直通線が開業したことで、更に利用者が増加すると見込まれています。

つきましては、シームレス化等、乗換え客の利便性向上のため、JR相模線への乗入れを検討されるよう要望いたします。

（茅ヶ崎市総合計画、ちがさき都市マスタープラン）

(2) 小田急線への乗入れ（継続）

厚木・愛甲地域（厚木市、愛川町及び清川村）の住民が横浜方面に移動する頻度は、東京方面と同じく年間相当数あり、海老名駅での乗換えに不便を感じています。

相鉄本線は、過去において本厚木駅まで乗り入れていた実績があり、また、相鉄・JR直通線が令和元年11月に開業し、相鉄・東急直通線も令和5年3月に開業したことから、これを契機に、関係各社と連携し本厚木駅までの乗入れについてご検討されるよう要望いたします。

本厚木駅は、他線との乗換えがない関東大手私鉄の駅において乗降人員数がトップクラスであると同時に、厚木市の昼夜間人口比率は115.8%であり、県内19市中1位であります。これは、市内在住及び在勤、在学の多くの利用者があるものであり、横浜方面への往来も相当な数に上ります。

よって、現在海老名駅止まりの相鉄本線が本厚木駅まで延伸されることで、本厚木駅利用者のみならず、県央・県西方面の住民の利便性も飛躍的に向上します。

また、関東有数の観光地である箱根や第4の国際観光地をめざす霊峰大山地域を乗換えなしで結ぶ新たな交通ネットワークの構築は、社会便益の向上及び新たな輸送需要の喚起につながるものであり、地域経済の活性化の観点からも、本格的な検討をお願いいたします。

（厚木市都市計画マスタープラン、厚木市交通マスタープラン）

II 利便性向上

1 停車要望

(1) GREEN×EXPO2027を契機とした、瀬谷駅・三ツ境駅への特急停車（新規）

旧上瀬谷通信施設の土地利用については、郊外部の新たな活性化拠点の形成をめざし、地権者や市民の皆さまのご意見を伺いながら、令和2年3月に土地利用

基本計画を策定しました。

つきましては、GREEN×EXPO2027 の開催及び旧上瀬谷通信施設の大規模な土地利用転換に伴い、今後発生が想定される交通需要に対応し、来街者の利便性向上を図るため、瀬谷駅・三ツ境駅への特急列車の停車について要望いたします。

(横浜市都市計画マスタープラン、旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画)

2 新駅の設置

(1) 海老名駅～かしわ台駅間への新駅の設置（継続）

海老名駅～かしわ台駅間には住宅地が広がっており、また、現在、新たな住宅地の開発も順次進められています。

つきましては、駅間が 2.8km と他駅間に比べて長いことからも、利用者の利便性向上のため、新駅を設置されるよう要望いたします。

(えびな未来創造プラン 2020、海老名市都市マスタープラン、海老名市地域公共交通計画)

3 駅施設等の整備

(1) 高齢者、障害者、乳幼児連れの保護者等に配慮した駅施設の整備等（継続）

「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー法）」に基づき、バリアフリー化について、整備を進めていただいているところですが、「移動等円滑化の促進に関する基本方針」も踏まえ、誰もがより安全かつ自由に駅を利用できるよう、引き続き、次の事項について、特段に配慮されるよう要望いたします。

また、横浜市、藤沢市及び大和市においては、バリアフリー法に基づく基本構想を作成しているため、当該基本構想に基づく公共交通特定事業計画の作成及び移動等円滑化にかかる事業を推進し、整備にあたっては、高齢者・障害者など駅利用者や地域の関係団体の意見を聞きながら進めるよう要望いたします。

①転落防止

ホームからの転落や列車との接触防止対策として有効なホームドアや可動式ホーム柵の設置については、令和 6 年度までに26駅で設置され、令和 8 年度に残り最後の海老名駅に設置すると回答して頂いていますが、県民、市民の安全・安心に直結し 1 日も早い整備完了が求められていますので、引き続き整備を進めていただくようお願いいたします。

また、ホームと車両との段差及びすき間の解消についても、引き続き取組みをお願いいたします。

②バリアフリートイレ

妊産婦・乳幼児連れの保護者等が安心して利用出来るような施設（親子トイ

レ、ベビーチェア付きトイレ、子どもサイズの便器・手洗い器・ベビーベッド、授乳室等) や大人や体の大きな子どもも使用可能な大きめのシート(ユニバーサルシート)などの整備を要望いたします。大きめのシート(ユニバーサルシート)の整備については、県全体としても今後推進していく方針であり、利用者から要望の多い設備でありますので、一層のご協力をお願いいたします。

また、温水シャワー水栓付き汚物流しの導入、重度心身障害者も利用できるよう、車いす対応トイレへの大人用ベッド(ユニバーサルシート)の設置についても要望いたします。

③移動経路等

エレベーターの整備など、段差解消に取り組んでいただいたことにより、円滑な移動経路については、多くの駅で1ルート目が確保されました。しかしながら、2ルート目の確保や駅改良時には、利用者の身体の状態に応じて分け隔てることのない導線の確保を引き続き検討していただきますよう要望いたします。

④エレベーター

傷病者を安全・確実に搬送するため、救急担架(奥行き2.0m、幅0.6m程度)が容易に収納できるエレベーターの設置を駅改良工事等にあわせて行っていただくよう要望いたします。また、設置が困難な場合には、代替策として足部等が折りたためる等、コンパクトにエレベーターへ収納することが可能なサブストレッチャー(搬送補助器具)の整備及び駅構内の階段を利用した搬出時の駅係員等の協力体制の確保を要望いたします。

⑤構内床仕上げ

駅構内の床について、雨天時においても滑りにくい仕上げとするよう要望いたします。

⑥案内表示等

これまでも、視覚障害者が安全かつ円滑に移動できるよう、音声案内装置の整備を推進していただいていますが、視覚障害者や聴覚障害者の方に配慮した案内表示の整備により一層取り組むよう要望いたします。特に事故発生時など、緊急時における情報提供については、特段の配慮をお願いいたします。

また、H PやS N S、アプリなど多面的な情報提供を行っていただいているが、特に、工事等による一時的な設備の使用中止と代替手段の情報は、移動が困難な高齢者や車いす使用者にとって必要な情報です。現場での案内表示と合わせて、ウェブサイト等での情報提供の取り組みを引き続き要望いたします。

⑦車両等

ユニバーサルデザインを取り入れた車両については、順次、導入を進めてい

ただいていますが、今後も高齢者、障害者等が利用しやすい新車両を導入していただくよう要望いたします。

また、駅構内において、車いすやベビーカーなどの利用者に対する相互理解を深めるためのポスター等の掲出についても引き続き取り組まれるよう要望いたします。

⑧人員対応

高齢者や障害者、乳幼児連れの保護者等のエレベーター等利用時の配慮、高齢者や障害者の行動特性を考慮した実践的な訓練の推進、利用者への声かけなど、心のバリアフリーの啓発について引き続き継続していただくよう要望いたします。

また、障害者差別解消法の改正により、民間事業者においても合理的配慮の提供が義務化されました。障害者差別解消法の趣旨や合理的配慮について理解を深めるための研修や合理的配慮のための環境整備にも今後も積極的に取り組むようお願いいたします。

加えて、事前の改善措置として環境整備にも積極的に取り組むようお願いいたします。

新かながわグランドデザイン、横浜市基本構想、横浜市都市計画マスタープラン、横浜都市交通計画、藤沢市都市マスタープラン、ふじさわ障がい者プラン2026、健康都市やまと総合計画、大和市障がい者福祉計画、健康都市やまと都市計画マスタープラン、大和市総合交通施策、座間市都市マスタープラン、海老名市都市マスタープラン、海老名市障がい者福祉計画

(2) 西谷駅のバリアフリー化（継続）

先に開業している相鉄・JR直通線に加え、令和5年3月に相鉄・東急直通線が開業し、神奈川東部方面線全線で運行が開始した中で、西谷駅は拠点駅として重要な役割を担うことになります。駅舎は昭和40年代に建設され、改良を重ねてきましたが、南側はいまだにバリアフリー化がされていません。

つきましては、喫緊の課題解決として、誰もが安全かつ自由に駅を利用できるよう、南側のバリアフリー化を要望いたします。

III その他

(1) 自転車等駐車場用地の提供等放置自転車対策の推進（継続）

自転車等駐車場の設置については、駅周辺における用地の確保を含め、公共空間を活用した路上駐輪施設の設置を進めるなど各市町村において鋭意努力していますが、駅周辺において新たな用地を確保することは困難な状況にあり、適地がなく苦慮している状態となっています。

そのため、相模鉄道を利用する通勤・通学者には自転車や原動機付自転車の利

用者が数多くいることから、自転車等駐車場の設置に対する鉄道事業者の協力義務を規定した「自転車の安全利用の促進及び自転車等の駐車対策の総合的推進に関する法律（自転車法）」の趣旨にのっとり、既設の自転車駐車場のみならず、駅の利用状況や需要量、駅周辺における放置自転車の状況等を勘案し、自ら自転車駐車場を整備、管理及び運営していただくことを要望します。加えて、市町村へ自転車駐車場用地を無償で提供することや、市町村が行う施設の設置や維持に対して助成を行うなど、自転車駐車対策をより一層積極的に推進すること、並びに市町村が行う放置自転車対策に対して、積極的に連携及び協力することについても要望します。

とりわけ、横浜駅、天王町駅、西谷駅、鶴ヶ峰駅、羽沢横浜国大駅においては、例年、駅周辺の放置自転車台数が多く、市営自転車駐車場だけではひっ迫する駐輪需要に対応することが難しいため、鉄道事業者におかれても、駅周辺の放置自転車対策について、積極的に対応及び協力するよう要望します。

また、市町村としても、自動二輪車（排気量50ccを超えるもの。ただし、側車付きは除く。）の駐車対策だけでなく、子乗せ電動アシスト自転車の利用増加や電動キックボードをはじめとした新たなモビリティの普及により、多様化するニーズにも対応していく必要があるため、そうした需要に合わせた自転車、原動機付自転車及び自動二輪車の駐車場の設置やシェアサイクルポートの設置などについても、積極的に配慮及び協力するよう要望します。

（横浜都市交通計画、横浜市自転車活用推進計画、大和市総合交通施策）

（2）相鉄新横浜線の利用しやすい運賃設定等の検討（継続）

相鉄新横浜線については、利用しやすい運賃設定に努めるとともに、利用状況に応じて柔軟に運賃設定等を検討するよう要望いたします。